

茶の有機栽培で導入されている品種と有機栽培適性

【研究のねらいと取り組み】

- ・国内外でSDGsや環境に対する関心が高まっており、令和3年5月に国が策定した「みどりの食料システム戦略」では、有機農業の迅速かつ大幅な拡大目標が掲げられている。静岡県においても本施策に対応すべく、県を挙げて有機農業の推進に取り組んでいる。
- ・この一環として、有機栽培の安定生産技術の確立が不可欠であり、耐病虫性品種等の活用が非常に重要である。そこで、品種導入の参考とするため、静岡県内で茶の有機栽培に取り組んでいる経営体における導入品種の実態と各品種の有機栽培適性を明らかにする。

【研究の成果】

- ・調査した経営体は、静岡県内の11経営体であり、導入している品種数は全体で30品種であった。「やぶきた」はすべての経営体が導入しており、その他の品種では「つゆひかり」が9経営体、「おくみどり」が8経営体、「さえみどり、さやまかおり、べにふうき」はそれぞれ5経営体が導入していた。
- ・【煎茶】 導入されている品種は25品種であり、「つゆひかり、香駿、めいりよく、ゆめわかば」の有機栽培適性の評価が高かった。また、収量性は「ふうしゅん、めいりよく、香駿、つゆひかり」が「やぶきた」比で150%以上の評価であり、品質は「つゆひかり、香駿、さえみどり、山の息吹」の評価が高く、炭疽病の被害は「香駿、めいりよく、ゆめわかば、さえみどり、つゆひかり、べにふうき」が非常に少ない評価であった(表1)。
- ・【てん茶】 導入されている品種は19品種であり、「つゆひかり、ごこう、さえあかり、そうふう」の有機栽培適性の評価が高かった。また、収量性は「つゆひかり、ごこう、さえあかり」が「やぶきた」比で150%以上の評価であり、品質は「ごこう、せいめい、つゆひかり、おくみどり」の評価が非常に高く、炭疽病の被害は「つゆひかり、ごこう、さえあかり、そうふう」が非常に少ない評価であった(表1)。
- ・「つゆひかり」は複数の経営体から煎茶及びてん茶の有機栽培適性の高い品種であると評価されていた。

表1 茶の有機栽培で導入されている有機栽培適性評価の高い品種（令和5年度調査）

茶種	品種名	導入経営体数	有機栽培適性 ¹⁾	収量性 ²⁾	品質 ³⁾	炭疽病被害 ⁴⁾
煎茶 (8)	つゆひかり	5	5	159	4.7	1.3
	香駿	1	5	200	4	1
	めいりよく	2	5	220	2	1
	ゆめわかば	1	5	100	2	1
	さえみどり	3	4.5	100	4	1
	べにふうき	5	4.3	108	2.8	1.5
	ふうしゅん	1	4	230	2	2
	山の息吹	3	4	95	4	3
	さえあかり	1	4	90	2	2
	おくみどり	4	3.5	110	3.7	2.7
	やぶきた（比較）	8	2.1	100	3	4.4
てん茶 (7)	つゆひかり	7	5	163	4.5	1
	ごこう	1	5	160	5	1
	さえあかり	1	5	150	4	1
	そうふう	1	5	100	3	1
	せいめい	1	4	100	5	-
	香駿	1	4	100	4	2
	おくみどり	4	3.5	116	4.3	4.5
	さえみどり	3	3.5	98	4	3
	やぶきた（比較）	5	2.3	100	3	4.3

¹⁾1（低）～5（高）、²⁾やぶきた(100)比、³⁾やぶきた比：1（劣）～3（同等）～5（優）、⁴⁾被害程度：1（無）～5（多）、

^{1)～4)}導入経営体の平均、「-」：評価不明、茶種下の()は生産する経営体数、4経営体は両茶種を生産